

アプライド マテリアルズ(AMAT)

【セクター】 半導体製造装置

【市場】 NASDAQ

【企業概要】

世界最大の半導体製造装置メーカーで、フラットパネルディスプレイ、太陽電池向け製造装置も手掛けます。メタル膜形成装置、ウエハ研磨装置、イオン注入装置、エッチング装置、ウエハ検査装置など露光装置を除く、幅広い半導体製造装置を提供しています。台湾、韓国、中国、日本向けなど海外売上が87%、米国売上が13%、半導体の分野別売上は、ファウンドリー、ロジックほかが52%、フラッシュメモリーが26%、DRAMが22%を占めます（19年10月期）。19年7月に旧日立系のKOKUSAI ELECTRIC社を買収しています。

【業績】（単位：売上、純利益は百万ドル、EPS、DPS、BPSはドル、ROE、自己資本比率は%）

決算期	売上高	純利益	EPS	DPS	BPS	ROE	自己資本比率
18年10月期	16,705	4,294	4.18	0.70	7.1	53.0	38.8
19年10月期	14,608	2,813	2.97	0.83	9.0	37.4	43.2
20年10月期予想	16,620	3,526	3.81	0.86	10.9	37.7	-

※EPS：1株当たり利益、DPS：1株当たり配当、BPS：1株当たり純資産、ROE：株主資本利益率（出所）BloombergデータよりSBI証券が作成

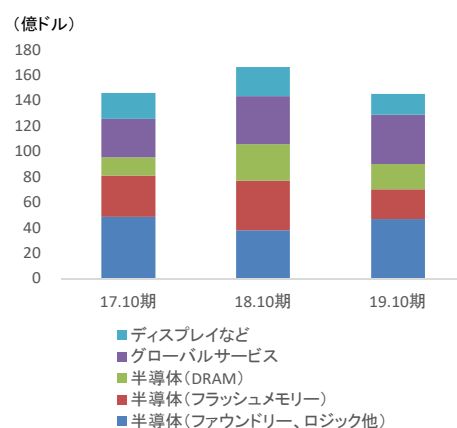
【主要指標】

図表1 半導体製造装置の市場シェア（2019年）

企業名	シェア(%)
アプライドマテリアルズ	18.9
ASMLホールディングス	18.7
東京エレクトロン	13.5
ラムリサーチ	13.3
KLA	7.5
ダイフク	5.8
SCREENホールディングス	4.4
日立ハイテク	2.4
その他	15.4

（出所）BloombergデータよりSBI証券が作成

図表2 分野別売上推移



（出所）BloombergデータよりSBI証券が作成

【会社の見方】

半導体製造装置の世界シェアはトップで高い技術力とソリューションの提供能力が評価されている企業です（図表1）。5GやAIに使用される半導体の構造はますます複雑になる傾向があり、業界をリードする研究開発費を投入する同社の売上拡大の要因になると見込まれます。一方、同社の世界シェアは2017年の20.4%をピークに頭打ちとなっており、ASMLホールディングスが圧倒的な市場シェアをもつ露光装置がその他半導体製造装置の伸びを上回っていることが主な要因とみられます。

【見通し・注目点】

20年2-4月期決算は、半導体システムの売上が前年同期比18%増とけん引して売上が前年同期比12%増、調整後EPSが同27%増と業績回復が続いています。CEOは決算リリースで「状況は依然として流動的ながら、現在われわれが見えていることに基づくと、サプライチェーンは回復しつつあり、半導体製造装置とサービスに対する需要の基調は引き続き強い」と楽観的な見通しを示しました。ただし、通常は決算リリースに含まれる次四半期の売上とEPSの見通しは今回提供されませんでした。

(SBI証券 投資情報部 榮 聡)

(更新日 20/5/25)

本資料は投資判断の参考となる情報提供のみを目的として作成されたもので、個々の投資家の特定の投資目的、または要望を考慮しているものではありません。投資に関する最終決定は投資家ご自身の判断と責任でなされるようお願いいたします。万一、本資料に基づいてお客様が損害を被ったとしても当社及び情報発信元は一切その責任を負うものではありません。本資料は著作権によって保護されており、無断で転用、複製又は販売等を行うことは固く禁じます。